



OHARAサポーター倶楽部会報

丸窓 [第12号]

《掲載情報》

- ・大原美術館後援会活動報告
- ・耳寄り情報
- ・学芸室より など

発行：大原美術館後援会事務局

後援会活動報告

「大原美術館後援会 感謝と親睦の夕べ」を開催しました！

開催日：2017年12月15日（金曜日） 会場：大原美術館 本館

「今年もあと半月だね」—そんな声を掛け合う慌ただしい時期でしたが、今まで開催してきた中で最も多い、個人会員90名、法人会員25社38名のみなさまにご参加をいただきました。

最初の会場は本館2階です。大原あかね理事長の開会挨拶の後、高階秀爾館長から大原美術館の1年間の活動報告がありました。次に、森川政典後援会事務局長が現在の会員数や、後援会PR仕様の自動販売機設置を進めていること、みなさまの会費の活用内容などを紹介し、日ごろのご支援に感謝を申し上げました。

続いて、対談「児島塊太郎と大原謙一郎“児島虎次郎画伯の足跡を訪ねて”を語る」に移りました。

2000年から2016年にかけて9回、多い時は30名を超えるメンバーで、ベルギー、フランス、スペイン、スイス、イタリア、中国など、虎次郎が滞在した土地を旅しています。きっちりと過去の資料整理をされている児島先生に拝借した大量のアルバムより厳選した写真をスクリーンに映し、そこから数々の思い出話が飛び出しました。

2000年の写真を見て、まずは「若い！」。ステキに齢を重ねているお二人ですが、ちょっぴり恥ずかしそうな様子も。そしてヨーロッパの美しい景色や意外な旅行者メンバーの姿、訪ねた美術館前での集合写真などの中で、目立つのは「お墓参りが多い！」こと。ベルギーの絵画学校のデルヴァン校長先生をはじめ、セガンティーニやマティスらのお墓に花をたむけて敬意を表している姿は印象的でした。

また、実際に訪問したからこそ伝わる「孫視点」での虎次郎が作品を収集した当時のエピソードや、子孫ら（例えば、セガンティーニのお孫さん）との交流などの話から、過去から現在、そして未来へと、様々なかたちで繋がっていることが感じられました。

大原名誉館長は、トークに熱が入りすぎて、ステージから2度も落ちてしまうというアクシデントも。それでもマイクは離さずステージ外から、また右へ左へと移動して大いに語りました。また、全ての旅に同行されていた、笠岡のワコースポーツ文化振興財団の吉岡洋介理事長から、今でも親密な交流が続いていると、飛び入りでコメントをいただき、第10回目となる次なる旅への期待が深まったように思います。

そして、対談中に倉敷国際ホテルが整えてくださった1階の懇親会会場へ。高階館長の乾杯挨拶からスタートしました。多くの方にお越しいただいていた為、少し窮屈であったかもしれませんが「楽しかった」、「意外な方とばったり会えて嬉しかった」などのご感想をいただきました。

ご参加くださいましたみなさま、ありがとうございました。



旅のアルバム。この約3倍の量を拝借しました。



大原名誉館長（左）と児島先生（右）



懇親会の様子

ルイ・ヴィトンとコラボレーション！

ゴーギャン《かぐわしき大地》のバッグが世界のヴィトン・ショップで販売されています

“西洋絵画の傑作を再解釈したMASTERSコレクション”として、ルイ・ヴィトンが現代アーティストのジェフ・クーンズとのコラボレーションを展開しています。大原美術館でも作品を2点所蔵しているクーンズ。2016年夏にルイ・ヴィトンから最初のコンタクトがあり、2017年秋に発売されました。同コレクションとして、国立西洋美術館のモネ《睡蓮》や、オルセー美術館のマネ《草上の昼食》などがラインナップされていますが、そのインパクトは我々がゴーギャンが群を抜いています！



バッグや財布、スカーフなど9製品の中から写真の1点（ネヴァーフル ¥379,080）をルイ・ヴィトンから大原美術館へ贈っていただいたので、クーンズの参考資料として保管することにしました。また、「感謝と親睦の夕べ」では実際にお披露目し、注目を集めました。

ルイ・ヴィトンのホームページでは、動く《かぐわしき大地》がご覧いただけます。そのショートフィルムも格好良いので、ぜひご覧ください。



2018年新年のニューヨーク店の外観。ゴーギャンが目立っています！

学芸室より

大原美術館の保存・管理担当の若手学芸員より シリーズ3:作品の貸出って？ 2

学芸員 塚本貴之



「ふう〜今回も無事に戻ってきた」

数か月間、時には半年以上も他美術館に貸出されることがある当館の作品たち。彼らが無事に戻ってきたときには、いつもこのように一息つきます。

私が主に担当している作品の貸出し作業では、これから長旅に向かう作品たちの健康状態のチェックや梱包に最も神経を注ぎます。というのも、やはり長旅には危険がつきもので、運搬時の揺れやその際の環境変化が作品を傷つける要因になってしまうからです。そのような危険から作品たちを守るため、貸出しの現場では貸す側と借りる側の担当者が見守り、さらには美術品の扱いに長けた作業員によって作業が進められるのです。実際の作業では、コンディションチェック・シートと呼ばれる作品のカルテをもとに劣化状態や危険な箇所の有無を確認し、作品の形状や額の強度を考慮した専用の箱に梱包していきます。そして、無事に確認と梱包を終えた作品は、美術品専用の車両（トラック）に積まれていきます。この車両には、作品を取り巻く温湿度を一定に保つためにエアコン機能が備わっており、さらにエアサスペンション機能によって移動中の振動が抑えられる仕組みになっています。この一連の作業を返却時も同様に行い、当館へ帰ってくるわけですが、これだけの安全策を取っていても作品が帰ってきた時に安堵のため息をついてしまうのは、私が心配性なだけでしょうか…。

後援会事務局より

会員証のデザインが新しくなりました

2018年に入り、会員証のデザインを一新しました。以前より「名刺サイズは財布に入れづらい」というご意見をいただいていた為、一般的なクレジットカードと同様になるよう、幅を短くしました。また、紙製だと1年間使いこんだ会員証はボロボロになってしまっていたので、プラスチック素材に変更しました。そして表面には、みなさまに最も親しまれていると言える作品、モネ《睡蓮》を印刷しています。

ご継続時に、順次新しい会員証に切り替えいたします。ぜひ新しい会員証をお持ちになって、何度でもご来館をいただけましたら幸いです。



表紙の写真



満谷国四郎 《緋毛氈》
113.0×154.0cm 油彩、画布 1932年

2018年は成年ということで、緋毛氈の鮮やかさと主役の裸婦に目を奪われるこの作品ですが、日本原産の犬、狆(チン)が描かれた箇所をクローズアップしました。現在は分館の第1室でご覧いただけます。